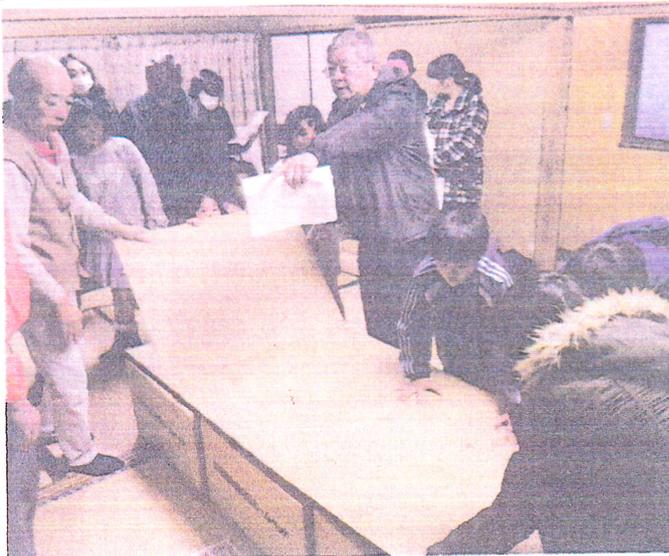


# 土浦の町内会で防災活動

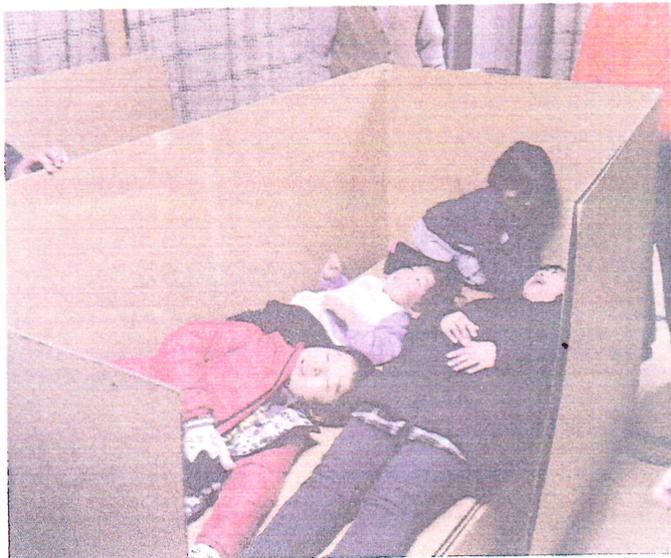
## 段ボールベッド作りに挑戦

### 「簡単に作れた」

土浦市中央2丁目町内会の子ども育成会と自主防災・防犯会など約30人は7日、恒例の防災・防火活動に取り組んだ。今年は災害発生時に開設される避難所で、必要になる「災害緊急時用段ボールベッド」作りに初挑戦した。



段ボールのベッドを組み立てる子どもたち＝土浦市中央2丁目公民館



完成した段ボールベッドに横たわる家族＝土浦市中央2丁目公民館

段ボールベッドは、段ボールシートやケースの製造販売を手掛ける王子コンテナが開発した。段ボールの保温効果で、低体温症を防止、軽量で持ち運び

しやすいなどの特徴があるという。段ボールベッドは縦横195センチ、横87センチ、高さ40センチの大きさ。参加者全員、作るのは初めてで、子どもと大人が

協力しながら、組み立てた箱9個を並べ、段ボール板を敷いた。小学5年の来栖優さん(10)は「箱を折って、ガムテープで固定するだけだから意外と簡単に作れる」と笑顔で手を動かす。最後に仕切りを立てて完成した。

寝心地を確かめた小学4年の瀬畑翔平さん(10)は「大人と寝ても丈夫だったので、避

難時でも1週間ぐらいは我慢できそう」と語り、「枕が無いと頭が痛そうなので、ジャンパーを丸めて枕の代わりにした」と考え始め、住民同士のつながりや支え合いにもなるのではないかと話していた。

## 声を上げ、防火パトロール



大人と子どもで火の用心を呼び掛ける防火パトロール＝土浦市中央2丁目

その後、親子で火の用心を呼び掛ける夜回り活動が続いている。パトロールを実施。子どもたちは拍子木に合わせて力強く「火の元に注意しましょう」と声を上げ、町内約1キロを歩いて回った。

自主防災・防犯会は石浜孝一部長は「ベッド作りと防火パトロールを通じて「いつ発生するかわからない災害時に少しでも慌てず行動でき、住民同士のつながりや支え合いにもなるのではないかと話していた。」と喜んでいた。(谷島英里子)

高齢者と子どももけん玉を楽しむ

この日は、町内に昨年できた老人会のメンバーが昔遊びを教えようと、子どもたちとけん玉で遊ぶ時間も設けられた。

# キ

弓の生は、Fore ib (フォー) というモス符号でキーボード入力デバイス及び販売する団体で、創立者・開として活動学群の学生

ス符号をご帯電話・スリ使われな符号とし在も、アマ人工衛星をわれていま

信号のオン伝えられる在フォーサや足が動かへの文字入をを目指してかそうとす流れます。ス符号を使用力を行える

とが、将来れません。一人でもっとでも良技術を社会し営利組織ていきたい

(エイター) 12月22日付) た。